

## 在セネガル日本国大使館月報

2023年12月

### 主な出来事

#### セネガル

##### (内政)

- 27日までに憲法評議会は大統領選挙への93件の立候補書類を受領した。主な立候補届出者は、アマドゥ・バ首相、ウスマン・ソニコ旧PASTEF党首、バジル・ジョマイ・ファイ旧PASTEF統一候補、イドリサ・セック元首相、カリム・ウッド元大臣、ハリファ・サル元ダカール市長。29日、抽選により、93名の立候補届出者の後援者内容の審査順が決定した。(29日 APS、Seneweb)
- 31日、サル大統領は年末恒例の国民向け新年演説を行い、今回が自らの最後の年末の演説になること、2月に実施される大統領選挙が平和裏に実施されるようにし、4月2日に権力委譲が行われること等を語った。(31日 大統領府 X)

##### (外政)

- 6日、サル大統領はコンゴ共和国を友好訪問し、10日、カタールにてドーハ・フォーラム2023に出席した。また12日、ジュネーブにおいて国連人権口頭弁務官事務所設立30周年記念行事に出席し、マージンでベルセ・スイス連邦大統領と会談した。(8日 Le Soleil、10日、12日 大統領府 X)

#### ガーボベルデ

- 9日、コレイア・エ・シルヴァ首相は、アルゼンチンの新大統領就任式に向かう途中、カーボベルデに立ち寄ったゼレンスキー・ウクライナ大統領と会談した。同首相はウクライナの主権と領土的一体性を強調した。(9日 balai CV)

#### ガンビア

- バロウ大統領は第15回イスラム協力機構サミットのガンビア開催のための道路建設事業現場を視察し、進展に満足した。ガンビアは同サミットを2024年5月末までの開催することを目指している。(7日 The Point)

#### ギニアビサウ

- 2日、1日に起きた銃撃戦を受け、エンバロ大統領は国家憲兵隊の行為がクーデタの試みであると認定し、責任を追及すべく調査委員会を立ち上げることを公表した。議会与党のPAIGCは国家憲兵隊を非難する声明を出した。(2日 dw)
- 4日朝、エンバロ大統領は、銃撃事件を受け、国民議会を解散することを決定した。それに対し、議会内与党のペレイラ国民議会議長は、憲法違反だと主張した。4日午後、エンバロ大統領はマルティンス首相の続投を発表すると同時に政権内ポストの見直しを行うとした。(4日 dw)
- 12日、4日にエンバロ大統領が国民議会を解散したことを受け、議会与党PAIGCは議会活動を続けようと国会議事堂に入ろうとした。それに対し、警察が催涙弾を発砲し、議場へのアクセスを妨害する事件が発生した。(13日 DW)
- 20日、マルティンス首相は、ギニアビサウの首相の地位を解任された。同日、ルイ・ドゥアル

テ・デ・バロス新首相が新首相に就任し、新内閣のリストが発表された。新内閣は、大統領の陣営とPAI Terra Ranka野党連合から成り、24名の大臣と9名の閣外大臣で構成される。(20日 DW、21日 France24)

## **セネガル**

### **(内政)**

#### **内政一般**

- 5日、ジャムニャジョ市の国際産業地区整備計画第2フェーズ(中国輸出入銀行の借款600億FCFAによる)の除幕式が実施された。式典にはサル大統領が出席し、約60の企業を誘致し2万3千人に雇用を生み出すとの見通しを示した。(5日 APS)
- 27日までに憲法評議会は大統領選挙への93件の立候補書類を受領した。主な立候補届出者は、アマドゥ・バ首相、ウスマン・ソンコ旧PASTEF党首、バジル・ジョマイ・ファイ旧PASTEF統一候補、イドリサ・セック元首相、カリム・ワッド元大臣、ハリファ・サル元ダカール市長。29日、抽選により、93名の立候補届出者の後援者内容の審査順が決定した。(29日 APS、Seneweb)
- 31日、サル大統領は年末恒例の国民向け新年演説を行い、今回が自らの最後の年末の演説になること、2月に実施される大統領選挙が平和裏に実施されるようにし、4月2日に権力委譲が行われること等を語った。(31日 大統領府 X)

### **(外政)**

#### **二国間・多国間関係**

- 7日、バ首相はフランスでボルヌ仏首相と会談し、昨年12月に開催されたフランス・セネガル政府間会合のフォローアップについて協議した。(7日 首相 X)
- 6日、セネガルと英国は、合同軍事委員会を設置し、安全保障・防衛分野で協力を進めていくことで一致した。(6日 APS)
- 6日、サル大統領はコンゴ共和国を友好訪問し、10日、カタールにてドーハ・フォーラム2023に出席した。また12日、ジュネーブにおいて国連人権口頭弁務官事務所設立30周年記念行事に出席し、マージンでベルセ・スイス連邦大統領と会談した。(8日 Le Soleil、10日、12日 大統領府 X)
- 9日、新疆ウイグル地区の政治代表団がダカールを訪問し、ダカール・ウルムチ間の関係を強化する意思を表明した。(12日 Le Soleil)
- 15日、ファル外務大臣は、スペインのアルバレス・ブエノ外務大臣を迎え、セネガルの若年者の雇用問題や不法移民対策等について協議した。(16日 Le Soleil)
- 17日、サル大統領はルワンダ・キガリを訪問し、カガメ・ルワンダ大統領と国際情勢や二国間関係について協議した。(17日 大統領府 X)
- 21日、ファル外務大臣とイランの農業大臣は、農業、鉱業、防衛、インフラ、貿易、農村地域での産業開発等に係る開発協力の合意を締結した。(21日 APS)

#### **国際情勢・国連機関支援等**

- 1日、サル大統領は COP28のハイレベルパネル及び気候変動対策資金動員会合に出席し、遅れが見られるアフリカへの環境投資の必要性を説いた。(1日 大統領府 X)
- 23日、シエラレオネでの選挙後の混乱を受け、サル大統領とアクフォ・アド・ガーナ大統領は、同国の

憲法秩序回復に向けたECOWASミッションの一員としてフリータウンを訪問した。(23日 大統領 X)

## (経済)

### 経済一般

- 6日、西アフリカ諸国中央銀行(BCEAO)の金融政策決定委員会は、インフレ圧力があるとの認識から12月16日より政策金利を3.25%から3.5%に引き上げることを決定した。今年3月に3.0%、9月に3.25%と引き上げを行ってきた。(8日 L'Observateur)

## (社会)

- 6日、市民的自由を調査する国際NGO「Civicus Monitor」は、インターネットと Tik-Tok の遮断、メディアの抑圧、ジャーナリストの逮捕、野党 PASTEF の解党を理由に、セネガルの市民社会の自由度評価を大幅に引き下げた、もはやアフリカの民主主義国のモデルではないとの声明を出した。(7日 Sud Quotidien)
- 14日、WHOは西アフリカの感染症予防を目的に、西・中央アフリカ27か国をカバーする緊急管理センターをジャムニャジョ市に創設した。開所式にはバ首相が出席した。(15日 Le Soleil)
- 14日、セネガル海軍はセネガル沖425km で不審船を拿捕し、3トンのコカインを押収した。乗組員7名で、うちセネガル人は1名、ベネズエラ人1名、ギニアビサウ人5名だった。(18日 APS)

## カーボベルデ

- 4日、ガルシア・コレイア財務大臣は、ポルトガル、ルクセンブルグ、世界銀行、アフリカ開発銀行、EUと連携して2024年に若年層への投資を促すための首脳会合を開催することを発表した。(4日 Expresso das Ilhas)
- 6日、政府はポルトガルと職業訓練分野に400万ユーロを投資することで合意した。2千名の雇用創出を目指す。(6日 Expresso das Ilhas)
- 9日、コレイア・エ・シルヴァ首相は、アルゼンチンの新大統領就任式に向かう途中、カーボベルデに立ち寄ったゼレンスキー・ウクライナ大統領と会談した。同首相はウクライナの主権と領土的一体性を強調した。(9日 balai CV)
- 11日、ネーヴェシュ大統領は、コレイア・エ・シルヴァ首相とゼレンスキー・ウクライナ大統領が会談したことに対し、会談について事前に知らされていなかったとし、奇妙だとの発言を行った。(11日 Expresso das Ilhas)
- 13日、IMFはカーボベルデの環境・エネルギー転換に係る政策に対し、3,200万米ドルを融資することを決定した。(13日 Expresso das Ilhas)
- 14日、コレイア・エ・シルヴァ首相は、米国ミレニアム挑戦公社がカーボベルデへの第3次四か年計画に投資することを決定したことを公表した。(14日 santiagamagazine)

## ガンビア

- 5日、世界銀行はガンビア、ギニアビサウ、モーリタニアを対象としたインターネットへのアクセス改善計画に対し2億6,650万米ドルを拠出することを決定した。(5日 The Point)
- バロウ大統領は第15回イスラム協力機構サミットのガンビア開催のための道路建設事業現場を視察し、進展に満足した。ガンビアは同サミットを2024年5月末までの開催することを目指している。(7日

The Point)

- 13日、バロウ大統領は女性の自立に向け、女性が融資を受けやすくなるよう女性銀行を設立することを公表した。(13日 The Point)

## **ギニアビサウ**

- 2日、1日に起きた銃撃戦を受け、エンバロ大統領は国家憲兵隊の行為がクーデタの試みであると認定し、責任を追及すべく調査委員会を立ち上げることを公表した。議会与党のPAIGCは国家憲兵隊を非難する声明を出した。(2日 dw)
- 4日朝、エンバロ大統領は、銃撃事件を受け、国民議会を解散することを決定した。それに対し、議会内与党のペレイラ国民議会議長は、憲法違反だと主張した。4日午後、エンバロ大統領はマルティンス首相の続投を発表すると同時に政権内ポストの見直しを行うとした。(4日 dw)
- 5日、EUはビニアビサウの政治・社会状況の悪化に懸念を表明し、民主主義の強化のため平和的解決を呼びかけた。またAUのムサ・ファキ委員長は、暴力を非難し、議会の解散に懸念を示した。(5日 TFS)
- 6日、エンバロ大統領は、フランスのメディアFrance 24のインタビューで、ペレイラ国民議会議長がクーデタの試み起こした元凶だとして非難した。また、来週新内閣を発足させることを公表した。(6日 RFI)
- 12日、4日にエンバロ大統領が国民議会を解散したことを受け、議会与党PAIGCは議会活動を続けようと国会議事堂に入ろうとした。それに対し、警察が催涙弾を発砲し、議場へのアクセスを妨害する事件が発生した。(13日 DW)
- 12日、エンバロ大統領は、国民議会の解散から1週間の後、マルティンス首相を新内閣の首相に引き続き任用することを公表した。(13日 O Democrata)
- 20日、マルティンス首相は、ギニアビサウの首相の地位を解任された。同日、ルイ・ドゥアルテ・デ・バロス新首相が新首相に就任し、新内閣のリストが発表された。新内閣は、大統領の陣営とPAI Terra Ranka野党連合から成り、24名の大臣と9名の閣外大臣で構成される。(20日 DW、21日 Fraance24)

(注) 本月報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。

(了)